

J A 自己改革推進レポートについて

令和6年9月25日
J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A グループ鳥取の取り組み

①和子牛価格対策緊急要請

J A 鳥取県中央会と鳥取県農協農政協議会は8月21日、鳥取市で平井伸治知事に優良な県内和子牛生産の維持と生産基盤の強化に向け緊急要請を行った。中央会の栗原隆政会長をはじめJ A 全農とっとり、3 J A の代表者や、生産者を代表して木嶋泰洋氏が平井知事に要請書を手渡した。

生産資材の高止まりや物価高騰や枝肉価格の低迷等で肥育農家の経営が厳しくなっている。和子牛価格も値下がり傾向が続いており、令和6年7月の本県和子牛セリでは、平均価格が一頭当たり462千円で、11年振りに50万円を下回った。

緊急要請は「和子牛価格の下落対策で県独自の和子牛価格緊急対策事業の予算確保と支援の継続」「新時代の和牛王国鳥取を目指し、県和子牛哺育育成マニュアルにもとづく飼養管理の徹底で、生産者・県・J A などオール鳥取で、優良な和牛生産への基盤づくりに取り組むために必要な支援」を求めた。

栗原会長は「県内外の肥育農家が求める優良な子牛を繁殖・育成するためJ A グループも独自支援に取り組む。畜産農家の離農につながらないよう県にも引き続き支援をお願いしたい」と伝え、平井知事は「畜産農家が生産意欲を失わないよう鳥取和牛王国の復活を目指す」と応えた。



②中国地区営農指導員交流集会

中国地区J A 営農指導員交流集会が8月22日、鳥取市のホテルモナーク鳥取で行われた。5年振りに鳥取県で開催され、中国地区のJ A ・連合会の役職員など82名が参加。中国地区各県から選抜されたJ A 営農指導員の代表者5名が営農指導の実践的な取組成果を報告したほか、J A 全農ととりの小里副本部長による研修、翌日は農事組合法人八頭船岡農場の視察を行い、J A 営農指導の役割発揮に向け参加者は意識を高めた。

発表では、各J A が特産化を進める農産物の生産性や農業者所得の向上に向けた経営



支援、生産現場の課題や組合員ニーズを踏まえた実践的な取り組みなどを発表。日本協同組合連携機構の西井賢悟主席研究員が審査委員長を務め、審査の結果、JAしまね出雲地区本部河南営農センターの今岡さんが最優秀賞に輝いた。今岡さんは来年2月に東京都で行われる全国大会に中国地区の代表として出場する。

JA鳥取県中央会の栗原隆政会長は自身も10年間JA営農指導員を経験したことにふれ「農家の立場に立って苦労・努力する姿こそがJAへの信用・信頼に繋がる。交流を深め、最先端のJA発信者として今後も自信と誇りをもって取り組んでほしい」と激励した。

(2) 大山乳業農業協同組合の取り組み

「ねりんピックはばたけ鳥取2024」へ協賛

令和6年10月に鳥取県で開催される「ねりんピックはばたけ鳥取2024」へ大山乳業農協が協賛するにあたり、その感謝状贈呈式が8月21日に鳥取県庁にて行われた。

開催期間中は、鳥取県の魅力発信と牛乳普及を目的に白バラ牛乳200mlの紙パック15,000個を選手団の宿泊先へ無償提供する。また大会の機運を高めるため、白バラ牛乳1000ml紙パックにねりんピック応援広告を掲載した。贈呈式では、平井知事へ白バラ牛乳の200ml紙パックダミーを目録として贈呈し、小前組合長に感謝状が授与された。選手の皆さまへ白バラ牛乳を飲んで元気に競技に挑んでいただき、牛乳の飲用促進につなげていきたい。



(3) 鳥取県畜産農業協同組合の取り組み

コープしが組合員とのサマーキャンプ

鳥取県畜産農協は8月3日、4日に美敷牧場においてコープしがの組合員とのサマーキャンプを開催した。このキャンプは、生協組合員が産直の牛乳や牛肉の生産地で生産者や役職員と交流し、酪農や畜産について理解を深めていただくことを目的に、COP牛乳産直交流協会（コープしが、大山乳業農協、鳥取県畜産農協）が主催し、毎年開催している。今回はコープしがの組合員とその家族の31名が参加した。猛暑の中ではあったが、鳥取県産の肉や乳製品を味わいながら交流するとともに、酪農・畜産を取り巻く現状や産直牛の生産現場について理解を深めてもらうことができた。



(4) J A全農とつとりの取り組み

①香港で「すいかフェア」を開催

J A全農とつとりは7月6日、香港のデパート「YATA Taipo 店」で鳥取県産すいかフェアを開催した。

大玉すいかの切り方の実演や、「すいかの生ハムのせ」「すいかパスタ」などの試食をはじめ、Facebook での同時ライブ配信やInstagram への動画投稿も実施した。

会場は多くの人で賑わい、試食品はすぐになくなり、実演を見たお客様が大玉すいかをその場で購入するなど、すいかフェアは大いに盛り上がった。



②鳥取二十世紀梨初販売セレモニー

J A全農とつとりは8月26日、大阪市中央卸売市場本場にて、鳥取二十世紀梨初販売セレモニーを開催した。

産地からは平井鳥取県知事をはじめ、生産者の代表、J A、わかとりメイツ等が出席し、「糖度、玉太りともに申し分なく、自信をもって消費者に提供できる」と卸売会社や仲卸にPRし大いに賑った。

本年も試食を振る舞い、「二十世紀」のシーズン到来を盛大にアピールできた。



(5) J A鳥取信連の取り組み

担い手コンサルティングの取り組みについて

J A鳥取信連は、第50回J A鳥取県大会の決議事項のうち「大規模な担い手への対応強化」を重点取組施策とし、J Aにおける担い手コンサルティングの取組支援を行っている。

令和5年度は、本取り組みを持続可能なものとすべく、これまでのスキームを見直した（工程の短縮化（担い手との面談回数減少）等）うえで、県下3先（各J A1先）に対し、効果的・効率的にソリューションを提案し、担い手との関係再構築、J A取引（信用・営農）振興の可能性を広げることができた。

令和6年度も、各J A1先以上（上限なし）を目標に選定作業を進めている。信用・営農経済事業間の連携を徹底し、総合事業体としての課題解決サイクルを確立することで、「担い手の成長（所得向上）」と「J A総合事業の成長」の両立を目指していく。

(6) JA共済連鳥取の取り組み

「交通安全啓発用品」を鳥取県交通対策協議会へ贈呈

JA共済連鳥取は9月3日、秋の全国交通安全運動に先がけ、「LED反射ストロンリング（1000個）」・「折る反射材（2000個）」・「反射エコバック（1000個）」を鳥取県交通対策協議会へ贈呈した。

贈呈式では、JA共済連鳥取の清水運営委員会会長が「9月21日からの秋の全国交通安全運動にあわせて、交通事故未然防止に役立てていただきたい。」とあいさつし、同協議会副会長の亀井副知事へ目録の贈呈を行った。

贈呈した交通安全啓発用品は、交通イベントでの活用や、夕暮れ時・夜間の事故防止の啓発として各市町村を通じて交通安全運動期間に地域住民へ配布される。

JA共済連鳥取では、平成22年から交通事故撲滅を目指す活動の一環として、同協議会を通じて学生や高齢者等へ交通安全啓発用品を贈呈している。今後も交通事故の未然防止に取り組んでいく。



以上